



朝十小だより

～来がい 居がい 学びがいのある学校～

発行日 令和元年5月7日
朝霞市立朝霞第十小学校
〒351-0023
朝霞市大字溝沼828番地の1
TEL 048-469-5443
在籍児童数 680名



共感が人類を進化させる

校長 金子二郎

3月以降、思いのほか寒暖の差が大きい日が続いたせい、今年の春は例年以上にゆっくりとそして十分に、桜をはじめ咲き誇る花の美しさを満喫することができました。本校では今、サルスベリの花が見頃を迎えております。月があらたまると同時に新しい時代を迎えましたが、恵まれた自然環境の中で、保護者や地域の皆様のご支援のもと、気持ちも新たに「意欲ある子」「考える子」「健やかな子」の育成を目指し、教職員一同全力を挙げて参ります。これまで同様、お力添え賜りますようお願い申し上げます。



さて、本校周辺では美しい花ばかりでなく、チョウやテントウムシなどの昆虫やヒバリやサギといった鳥もたくさん目にすることができます。私達が日々忙殺されている中でも、さまざまな命が懸命に生きていることに改めて気付かされます。「世界は美しくて不思議に満ちている」を著した人類学者の長谷川眞理子先生によれば、人間の脳には、他の動物にはない特殊な能力があるということです。それは「他者に『心』があると想定すること」です。動物は外からの刺激を受けると、その情報を脳で処理し、何らかの反応や行動を起こしますが、人間の脳はその過程に「心」が介在していると考えます。他者に（時には「モノ」に対しても）心を想定して、相手の意図や行動を解釈しようとし、心を持たない人間以外の動物は、他者の発するシグナル（例えば、猫のうなり声）を、単にシグナル（「あっちへ行け」という威嚇）にとらえて反応すれば十分であり、心を見いだす必要はありません。200万年前に人類の祖先が熱帯雨林を出て厳しい環境であるサバナに移動し生き延びることができたことは、心を共有し協力することができなかった個体は滅び、協力がうまくできた個体の子孫が現在の人類に進化していったことを意味しています。食料も乏しいサバナでの狩猟採集生活は一人ではできないものだったに違いありません。長谷川先生は、「人類の進化を踏まえれば、人間は何らかの集団に属しそこで仲間と認められなければ、生きていけなかった。」ともおっしゃっています。人間の社会には「正義」や「公正」といった道徳感情がありますが、これも「協力する心」から生まれたと考えられます。人類が長い時間をかけて進化させてきた「心」の使い方を間違えない子供たちに育てていくことが、今改めて求められていると強く感じます。



人間は外からの刺激を受けると、その情報を脳で処理し、何らかの反応や行動を起こしますが、人間の脳はその過程に「心」が介在していると考えます。他者に（時には「モノ」に対しても）心を想定して、相手の意図や行動を解釈しようとし、心を持たない人間以外の動物は、他者の発するシグナル（例えば、猫のうなり声）を、単にシグナル（「あっちへ行け」という威嚇）にとらえて反応すれば十分であり、心を見いだす必要はありません。200万年前に人類の祖先が熱帯雨林を出て厳しい環境であるサバナに移動し生き延びることができたことは、心を共有し協力することができなかった個体は滅び、協力がうまくできた個体の子孫が現在の人類に進化していったことを意味しています。食料も乏しいサバナでの狩猟採集生活は一人ではできないものだったに違いありません。長谷川先生は、「人類の進化を踏まえれば、人間は何らかの集団に属しそこで仲間と認められなければ、生きていけなかった。」ともおっしゃっています。人間の社会には「正義」や「公正」といった道徳感情がありますが、これも「協力する心」から生まれたと考えられます。人類が長い時間をかけて進化させてきた「心」の使い方を間違えない子供たちに育てていくことが、今改めて求められていると強く感じます。



人間は外からの刺激を受けると、その情報を脳で処理し、何らかの反応や行動を起こしますが、人間の脳はその過程に「心」が介在していると考えます。他者に（時には「モノ」に対しても）心を想定して、相手の意図や行動を解釈しようとし、心を持たない人間以外の動物は、他者の発するシグナル（例えば、猫のうなり声）を、単にシグナル（「あっちへ行け」という威嚇）にとらえて反応すれば十分であり、心を見いだす必要はありません。200万年前に人類の祖先が熱帯雨林を出て厳しい環境であるサバナに移動し生き延びることができたことは、心を共有し協力することができなかった個体は滅び、協力がうまくできた個体の子孫が現在の人類に進化していったことを意味しています。食料も乏しいサバナでの狩猟採集生活は一人ではできないものだったに違いありません。長谷川先生は、「人類の進化を踏まえれば、人間は何らかの集団に属しそこで仲間と認められなければ、生きていけなかった。」ともおっしゃっています。人間の社会には「正義」や「公正」といった道徳感情がありますが、これも「協力する心」から生まれたと考えられます。人類が長い時間をかけて進化させてきた「心」の使い方を間違えない子供たちに育てていくことが、今改めて求められていると強く感じます。

十小 みんなの元気の素1 シコぶんじゃった (岡正之/監督・脚本)

「キーワード」「応援ソング」に続き、このコラムの掲載も3シーズン目に入りました。今年度は一年をかけて映画を紹介しようと思いましたが、元気になるのならジャンルにこだわる必要もないと考え直し、映画や食べ物、本や景色など、色々なものをお伝えしていきます。第1回は1992年公開の邦画です。スポーツに関わる日本の映画は2002年公開の曾利文彦監督作品「ピンポン」も秀作です。スポーツは「筋書きのないドラマ」であり、本や映画のように実際の勝負シーンでなくとも、読む者、観る者に感動と勇気を与えてくれます。この作品は大学の廃部寸前の弱引相撲部が、あることをきっかけに素人同然の部員が団結し、立ち直っていくというストーリーです。選ばれしエリートアスリートの活躍ではないだけに、学生の頑張りにも共感し、観た後に誰もが「私も頑張りようかな」という気持ちになれる素敵な映画です。

テクニックは人から教わることができる。でも、ハートは自分で鍛えるしかない。(ラモス瑠偉)

